

ことばのテーブルの教材集について

● 現在、33点の教材を市販化している

○カード集:4点 ○プリント集:24点
○映像集:2点 ○データ教材集:3点

● 制作の経緯

ことばのテーブルに通う、**日本語母語の
発達障害児**の学習教材として作ったもの

修正・整理し、家庭用学習教材として市販化

新教材の紹介①

2019年7月発売

100枚プリント第23集
助詞・動詞穴埋めワーク

詳しくは、ことばのテーブルHP:教材コーナー:「助詞・動詞穴埋めワーク」参照

100枚
プリント
23集

「助詞・動詞穴埋めワーク」



- 助詞と動詞の習得を目的としたワーク
- 文章中の空欄の()に適切な助詞、または動詞を穴埋めする
- 助詞と動詞、文章中での語と語の関係性への気づきを促す

助詞穴埋めワーク

フェリー
北の国()のおはなします。広い野原()ありました。野原には、雪()降っていました。雪()何()降りつづき、やがて野原()まっ白()になりました。その野原のはずれ()、フェリー()という名前の、一匹()キツネ()住んでおりました。ある吹雪の目()ことです。野原のかたすみ()、ほんやり遠く()眺めていたフェリーは、「おや？」と、首()かしげました。雪()埋もれた野原の道()、だれか()歩いてくるのです。

適切な助詞を穴埋めする

同じ文章を題材として助詞・動詞それぞれを考える

動詞穴埋めワーク

フェリー
北の国のおはなします。広い野原が()ました。野原には、雪が()ておりました。雪は何日()つづき、やがて野原はまっ白に()ました。その野原のはずれに、フェリーと()名前の、一匹のキツネが()ておりました。ある吹雪の目のことです。野原のかたすみで、ほんやり遠くを()ていたフェリーは、「おや？」と、首を()ました。雪に()た野原の道を、だれかが()てくるのです。

適切な動詞を穴埋めする

助詞・動詞穴埋めワークの目的・考え方

① 助詞と動詞の相補的關係への気づき

* 助詞穴埋め

雪()降る

「降る」という自動詞から動作の主体を表す【が、は、も】などの助詞を推測する

* 動詞穴埋め

雪が()る

動作主体を示す格助詞「が」から、【降る、積もる、溶ける】などの語を推測する

◎ 文の中の助詞と動詞、双方の推測を通して両者の関係性への注目を高める

② 文脈中でのことばの関係への気づき

クリスマスも近い、ある寒い日のことでした。町角で、ひとりの少女が花を()ていました。「花はいかがですか？」けれども忙しい町の人たちは、だれも足を()てくれません。少女は、ため息を()ました。ところが…「花を()ませんか？」突然、声を()られて、少女が顔

「いかが」→少女=花売り→「売る」↔「もろう」

◎ 1文の関係性から文章全体へ関係性へ。より俯瞰的・多重的な注目を促す

新教材の紹介②

2019年11月発売

100枚プリント第24集
おしゃべりを作ろう

詳しくは、ことばのテーブルHP:教材コーナー:「おしゃべりを作ろう」参照

100枚
プリント
24集

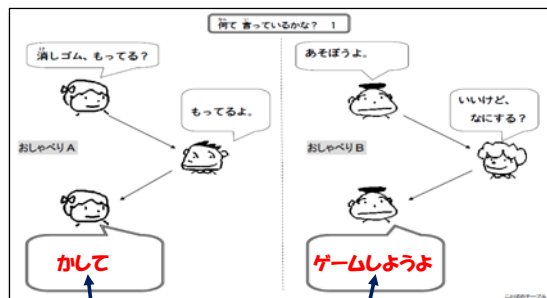
「おしゃべりを作ろう」



●二人の子どもの中で
交わされる、おしゃべり
(会話)を作る課題

●ブランクとなっている
吹き出しの中に、会話
が成り立つようなセリ
フを考え、記入する

課題Ⅰ 何て言っているのかな？



* 空欄の吹き出しに、適切なセリフを書き入れる

課題Ⅱ

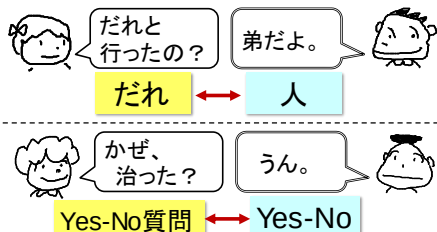
ひろし君のことば を考えよう

* 提示されている妹の
セリフから、兄の言っ
ていることばを考える



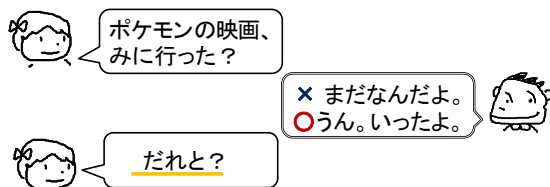
「おしゃべりを作ろう」の目的・考え方

① 質問—応答の整合性への気づき



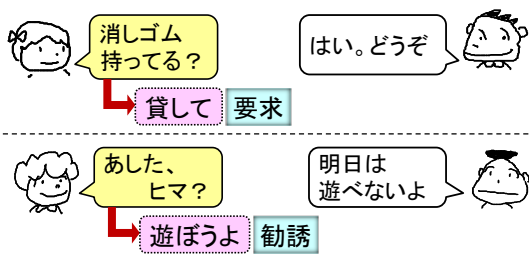
疑問詞や質問形式の理解／応答との対応

② 会話の文脈への気づき



前後のセリフへの注目と関係性の気づき

③発話意図(含意)への気づき



婉曲表現などの発話意図の理解

学習領域に対応した教材の紹介

会話の学習

動詞・助動詞の学習

心理洞察の学習

会話の学習

- 👉 第3回キーワードから考えることばの学習
「会話能力を中心に」
- 👉 第6回キーワードから考えることばの学習
「生活の中のことばの学習」

100枚プリント第5集

会話練習ワーク



日常会話表現に
親しむための教材

登場人物のセリフを
読み合うロールプレイを
通して、他者との協調や
心理洞察を育てる
学習目的もある

会話の文脈での練習

[illegible]

会話練習ワーク

ロールプレイによる役割練習

他者の立場に立つ

状況や気持ちを
認識しやすい

100枚プリント第15集

おしゃべり練習ワーク



会話練習ワークがまだ
難しい子どものための
平易なやりとりの教材。

二人の子どもの、短いやりとりが、吹き出しのセリフで表現されている。

おしゃべり練習ワーク テキスト例

おしゃべり 3: にちようび

にちようびに
どこかいった？

こうえんに
いったよ。

だれと
いったの？

おかあさんと
いったよ。

なにで
あそんだの？

ランド
プランコ。だよ。

おしゃべり 10: いい おでんき

いい！ おでんきだね。

どこか
いこうか？

こうえんが いいな。

おべんとう もって
いこう！

おかずは
なあに？

たまごやき！

役割を決めてセリフを読み合う

動詞・助動詞の学習

👉 第18回キーワードから考えることばの学習
「動詞について考える I」

👉 第9回キーワードから考えることばの学習
「文法を考える」

100枚プリント第9集

連語練習ワーク



★連語を通し、
語と語の関係性への
気づきをうながす

製作目的

- 動詞と名詞の
相補的学習
- パターン練習を通した
文法の洞察

問題例: ~に乗る

状況絵に対し、
示されているパター
ンで連語を作る

さいごは、
自分で絵を描いて
連語を作る

なににのる？ (月 日)

	ばす	に	のる
	ふね	に	のる
	ひこうき	に	のる
	バス	に	のる

ことばの学習において

名詞や動詞は
バラバラに呈示するのではなく

連語として呈示するのが有効



と同時に

連語の中で、2つのことばは、ともに
支え合い、お互いをより明確にする

はさみ できる

「はさみ」とは
切るときに使う
ものだ！

「きる」とは
はさみを使う
ときの動作だ！

100枚プリント第10集

活用練習ワーク



★動詞の活用と助動詞のワーク

製作目的

- 日本語の音韻・語形に対する感性を高める
- さまざまな助動詞を使った気持ちや状況の表現に親しむ

課題 I

絵を見てことばをかえてみよう

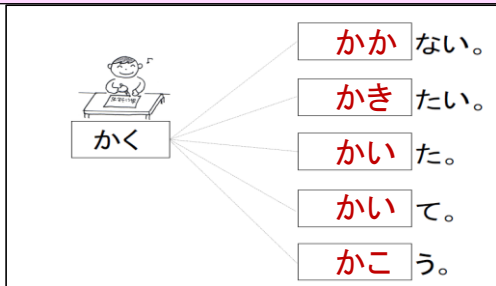
2つのイラストを対比しながらテーマとなる助動詞と動詞を連結する

課題A: ~ない①



課題 II いろんなことばにかえてみよう

1つの動詞を、助動詞(ない・たい・た・う)と助詞(て)に連結する



課題 III へんかんれんしゅう

さまざまな動詞を、1つの助動詞と連結する

① たべる → たべない	⑥ ねる → ねない
② みる → みない	⑦ だす → ださない
③ かく → かかない	⑧ あらう → あらわない
④ いく → いかない	⑨ くる → こない
⑤ のむ → のまない	⑩ する → しない
⑪ (よむ) → (よまない)	⑫ (おす) → (おさない)

活用練習ワークの学習上のポイント

プロソディとムードの提示

活用練習ワークは、
パターンプラクティス(型の学習)

意味はともかく

型を繰り返し、「言う・聞く・読む・書く」ことを通して
動詞+助動詞の形や、活用による語尾変化の
感覚をつかむことが目的

でも実際、子どもたちとこのワークを行っていると、
プロソディーとムードの重要性に改めて気づかされる

たとえば・・・

勧誘の意味を持つ
助動詞「う」を練習
するときに

「行こう」「見よう」などの
単語を、拳を突き上げて
威勢よく、聞かせたり、
言わせたりすると・・・

新しい動詞が、正しく
活用され、助動詞とつな
がることが多い

* 活用練習ワーク: ~う



活用や助動詞が、比較的運用できている
子どもを見ると、プロソディが割合に
豊かであることが多い

また・・・

「行かない」「行くよ」「行けば?」「行こう」
などの表現形を、唱えて見ると、
アクセントもリズムも抑揚も
それぞれに異なっていることがわかる

ただ音の違いだけでなく、プロソディの支援を
受けて、子どもは、きっと活用を学んでいる

生活の中の動詞の学習③: 助動詞と活用

プロソディーやボディーアクションを
豊かに使おう

●「切^て」「飲^で」

*「て」の所で、「どうぞ!」のように手を前に差し出す

●「食^{べな}ーい」「行^{かな}ーい」

*「ない」の所で、手を左右に振る

●「書^{いた}」「読^{んだ}」

*「た」の所で、手を下に向かって押す

～れば?
～ます
～ろ! etc.
それぞれの
プロソディーと
アクションで

☞ 第17回学習会「プロソディを考える」

生活の中での動詞の学習について

日常のコミュニケーション

状況があり、文脈があり、
ムード(心情)があり、動機と意欲がある

ことばの学習のもっとも大切な場

- 生活動作の言語化
- 会話での援助
- エラー訂正

心理洞察の学習

☞ 第11回キーワードから考えることばの学習
「自己洞察について考える」

☞ 第5回キーワードから考えることばの学習
「心理洞察を考える」

100枚
プリント
第集

自分のことを考えよう



- 自己洞察への気づきを
目的としたワーク
- 自分についての様々な
問いかけを通して自己
認識の向上を促す
- 経験・能力・所有・存在・
知識・嗜好の6領域を
対象とする

自分のことを
考えよう

経験

経験 1 (月 日)

やったことのあるスポーツ・やったことのないスポーツ

ある・ない・わからない
に、○をつけてね

① サッカー
[ある ・ ない ・ わからない]

② スキー
[ある ・ ない ・ わからない]

③ ドッチボール
[ある ・ ない ・ わからない]

④ スケート
[ある ・ ない ・ わからない]

⑤ バンジージャンプ
[ある ・ ない ・ わからない]

自分のことを
考えよう

所有

【第1回】 (月 日)

自分がもっているもの・もっていないもの

知っている・もっていない・わからない・わからないに、○をつけてね

① ふてばこ
[もっている・もっていない・わからない]

② 「桃太郎」の絵本
[もっている・もっていない・わからない]

③ スカート
[もっている・もっていない・わからない]

④ 自転車
[もっている・もっていない・わからない]

⑤ 野球のバット
[もっている・もっていない・わからない]

こどもがわかる

自分のことを
考えよう

能力

【第2回】 (月 日)

自分が できること・できないこと

できる・できない・わからないに、○をつけてね

① てつぼうの さかあがり
[できる・できない・わからない]

② うで立てふせ
[できる・できない・わからない]

③ でんぐりがえし
[できる・できない・わからない]

④ さか立ち
[できる・できない・わからない]

⑤ けんけん
[できる・できない・わからない]

こどもがわかる

自分のことを
考えよう

知識

【第3回】 (月 日)

自分が知っていること・知らないこと

知っている・知っていると思うけど自信がない・知らないに、○をつけてね

① カブト虫の 足の数
[知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない]

② にわとりの 足の数
[知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない]

③ タコの 足の数
[知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない]

④ オートバイの タイヤの数
[知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない]

⑤ サクラの花びらの数
[知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない]

こどもがわかる

「自分のことを考えよう」のねらい①

判断できないことを、
判断できない＝「わからない」
と答えてほしい

- * 「わからない」は高度な判断
- * 「わからない」や、「知らない」、「できない」などの否定解答を、嫌がる子どもが多い

否定解答への偏見をなくそう！

「自分のことを考えよう」のプリントで、
わからない、できない、などの解答をしたときに
花マル✿をつける

【知らない・やったことがない・できない】などを、
正確に判断して相手に伝えられる方が、肯定的
な応答をすることよりも、大切で、優れている、
ということを、理解させる

「自分のことを考えよう」のねらい②

質問がわからなかったときに、
問い返しを、してほしい

おかあさん、
バンジージャンプって、なに？

回答の適切さだけでなく、
課題を進めるプロセスが大切

つたえ合う楽しさを育てる

～生活の中でのことばの学習～

学校の保護者会などで、お話しさせていただいているテーマです。ことばのテーブルの教材製作の基本的な考え方についてお伝えしたく、今回掲載致しました。

毎日のコミュニケーションの中で

ことばを、学ぼう

どうしてかというと・・・

ことばは、
日常のコミュニケーションの中で
身につくものだから

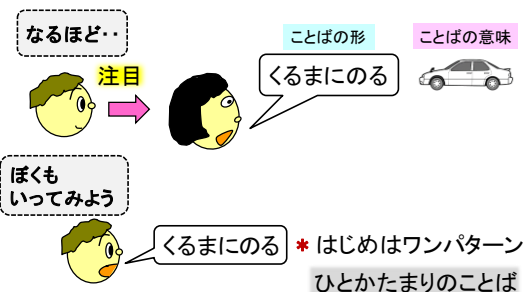
毎日のコミュニケーションの中で
どうやってことばを覚えるのか



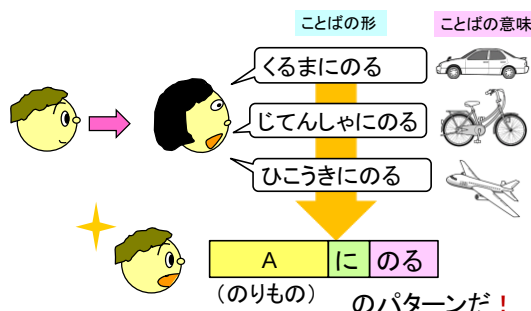
たとえば、文法の場合なら
最近の考え方のひとつは・・・

ことばの形と意味の
重ね合わせによって覚える

ことばの形と意味の重ね合わせ



形と意味の重ね合わせが
繰り返されると・・・



つまり

日常のコミュニケーションの中に
ことばを身につけるシステムが
隠されている

でも・・・

発達に未熟さを持つ子どもは、
日常生活を過ごしているのに
ことばを覚えるのが難しい

その理由は

生来、さまざまな
能力的制限を持っているから

やりとりから、受け取る割合が乏しい

では、ことばの発達を
できる限り援助していくためには

毎日のコミュニケーションを
より効果的なものにする

毎日のコミュニケーションとは・・・

家庭での
やりとり

学校での
やりとり

その他

家庭でのやりとり

ことばの習得の基盤

お母さんは赤ちゃんにいつも話しかけている
でも・・・

子どもが大きくなるにつれ
家庭でのことばの刺激は
乏しくなっていく

家族のコミュニケーションの特徴



ことばが未熟でも
わかりあえる家庭は
落ち着ける
癒しの場

●お互いのことを
よく知っている

●やりとりの内容が
固定化している

よくわかりあえる半面、
新しいことばの学習に
つながりにくい

ということで

家庭のでのやりとりを
もう少し刺激的にして行こう

共感をしよう

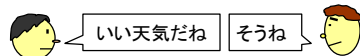
* 見えたもの、聞こえたもの・・・
感じたことをことばにしよう！

まずはじめに..

わたしたちは、
何のために
コミュニケーション
するのだろう？

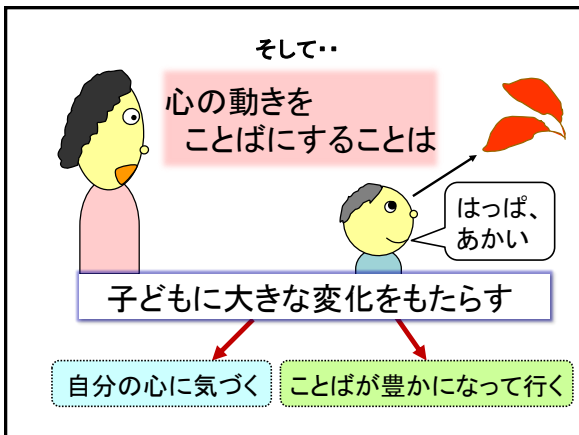
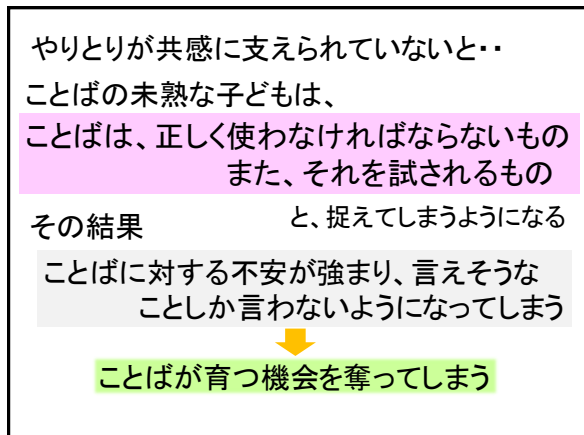
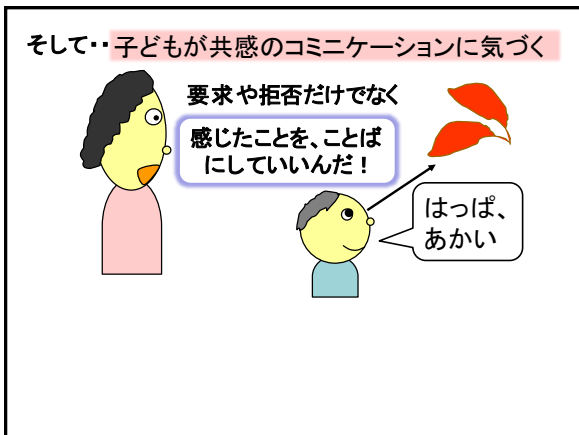
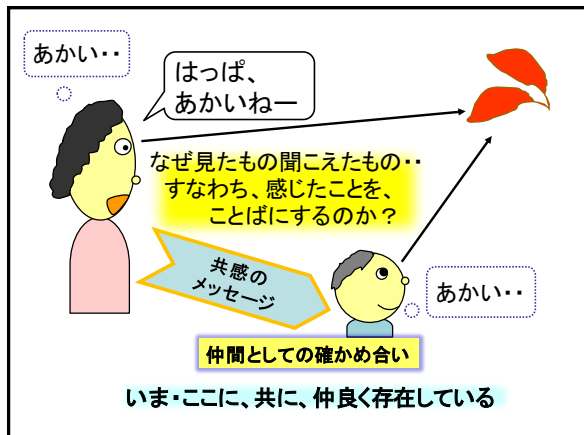
人間の会話内容は

その大半がどうでもいいこと



私たちのコミュニケーションは
自分と相手が共感し合うために
行われている

* 共感とは、共に何かを感じること



共感は **ことばを豊かにしていく**

たとえば

「**赤い**」や「**きれい**」や「**吠える**」や「**なでる**」は、
どんなとき言うだろう？

感じたことをことばにするとき

私たちは、
共感のコミュニケーションの中で
ことばを増やし豊かにして行く

子どもと共感しあうために大切なこと

感動のハードルを下げて
小さなことに気づきと関心を持つ

「知る楽しみ」と「俳句的ころ」

おたがいをよく知り
相手に対して関心を持つ



こんどは、どこ行っただの？



先生から
のお話

△を作ろう

毎日のコミュニケーションの中で
ことばは、どうやって覚えるのか

形と意味の重ね合わせ



ジュース
ちょうだい

物
人—人
三項関係



共感

はっば、
あかいね

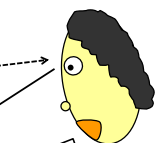


ことばの獲得

三項関係

りんご、って
いうんだな..

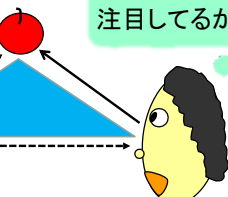
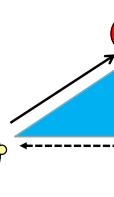
注目



りんご

いつも△を意識しよう

モノと人、両方に
注目してるかな..



* 視線・声かけ・顔向け・指さし...
△を作る努力が必要

パソコンを用いた指導場面での△



ところで..

毎日のさまざまなコミュニケーションは
会話で成り立っている

その何気ない日常の会話を
子どものことばの発達に
生かせないだろうか..

会話技術を持とう

子どもは

自分の力だけで、
ことばを習得して行くのだろうか

ことばの習得の考え方の流れ

初めの頃は

教えることによって、
子どもは言葉を覚える



その次に

子どもは、自力で
言葉を覚える

最近 ふたつの考えの折衷型

大人は、子どものことばの習得を



無意識に援助している



こどもは無意識に援助されている

会話における大人の援助

- ことばを拡げる援助
- 抑揚やリズムによる援助
- ことばの推測を促す援助

● ことばを拡げる援助

会話の中で、こどもが言ったことばを相手の大人が、ふくらませて返す

★ つけ加え

★ 言い直し

★ つけ加え

① 文を拡げる

子:「ケーキ」

母:「ケーキ タベタイネー」

② 文法を加える

子:「ヒコウキ トンデル」

母:「ヒコウキガ トンデルネー」



★ 言い直し

子:「ハサミヲ キッタ」

母:「ハサミデ キッタンダ」

子:「エンソク、イク」

母:「エンソク、イッタネ」

子:「ハコ」

子:「フクロ」

母:「フクロネ」

母:「カミブクロネ」

つけ加えや言い直しのポイント

ことばの間違いや不足を訂正せず
さりげなく教える



ことばを話すことに不安を抱かせない

ことばは、使わなければ育たない

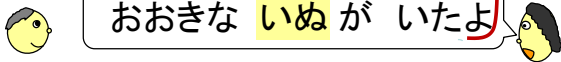
* でも、ことばや知識に関心のある
子どもには、訂正の学習は有効

● 抑揚やリズムによる援助

★ めりはりのある抑揚・間・テンポ

★ 助詞の強調

★めりはりのある抑揚・間・テンポ



豊かな抑揚や、大事な部分の強調、ことばとことばの間の間(ま)が大切

- ・文の仕組みへの気づきを促す
- ・話し手の伝えたいことに気づく

★助詞の強調

！助詞は認識しにくい

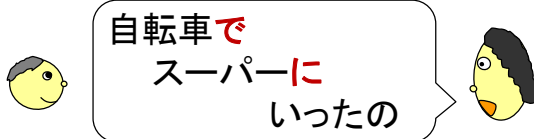
単語と単語の間に埋もれて、聞きとりにくく、注目しづらい

← 終助詞は助詞の中で ~ね
いちばん早く覚える ~よ

助詞に対する注目を促したい

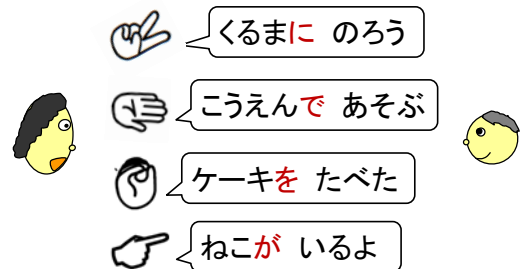
文中の助詞の部分を実際立たせる

助詞を強くはっきりと言う



もっと強調するには...

助詞に、指サインなどの視覚キューをつける



●ことばの推測を促す援助

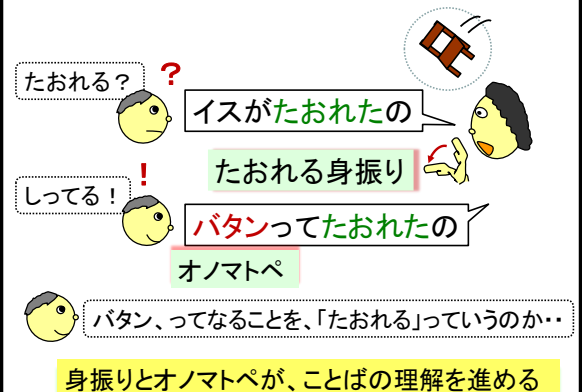
★身振り・オノマトペを豊富に使う

擬音語・擬態語



動詞や形容詞は、
名詞に比べて、意味が捉えづらい

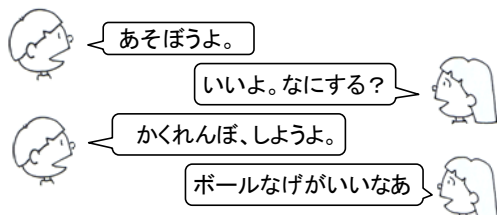
でも、そこに身ぶりやオノマトペがあれば...



身振りやオノマトペが、ことばの理解を進める

ところで・・・コミュニケーションや会話の
特徴とは、なんだろう？

たとえば、子どもの同士の会話なら・・・



会話は基本的に、かわりばんこ

かわりばんこをしよう

会話は基本的に
かわりばんこに交わされるもの

そして本来、会話する人同士は
対等な立場のはずだが

ことばが未熟な子どもは、会話において
弱い立場に置かれることが多い

人に何かを問われ、それに
応えなければいけない場面

とくにそのような会話になりやすいのが・・・

大人との会話

子どもに対する質問が多い

今日は、何したの？ 給食、何食べた？

大人が会話を支配してしまう

会話が苦手な子どもには、ストレス

* かわりばんこにならず、会話嫌いになってしまう

このような状況を改善するためには・・・

1 聞く必要のない質問は極力しない

先生、知ってるのに・・・ この前、何があったんだっけ？

* 会話をテストと捉えてしまう

2 子どもから会話が始まるように工夫する

子どもからの「質問」や「依頼」、「感想」
などを引き出せるもの

(応答の予想・期待)

- だいじょうぶ？ 感情
- どうしたの？ 質問
- たべすぎだよ 判断

先生、おなか、
いたいんだ・・・

こどもが、
会話の内容に
関心を持ち、

自発的に話す

(応答の予想・期待)

- 見せて 依頼
- いくら？ 質問
- いいなあ 感情

さっき、
お金、
ひろったよ

かわりばんこの大切さ

かわりばんこは、心のあざない

●コミュニケーションの喜びの形成

* ころの充足感としての意義

●自分と他者との同一性の認識

* 私も、あなたも、同じ心を持った、
対等なコミュニケーター



かわりばんこが できない子ども

●話し出すきっかけがつかめなかったり、問いかけ(働きかけ)に対して
応じることができない子ども

●相手に話す機会を与えず一方的に
話し続けたり、思い浮んだことを
唐突に口に出して、会話の順番を
守れない子ども

順番が守れない理由



衝動性が高い

行動が常に前がかりで、
自分の番を待てない
だから、待てない子どもは・・・

かわりばんこ＝やりとり が難しい

かわりばんこは、
相手を待たなければならない



では、この場合の「待つ」とは何か？
「待つ」とは、ただ受け身に
ぼんやりしていることではない

「待つ」とは、
相手をよく見て、よく聞くこと

★「待つ」ことの大切さと難しさ

「よく見る」「よく聞く」とは・・・

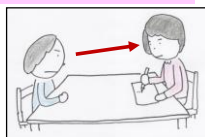
見る ≠ いっしょうけんめい見る

聞く ≠ いっしょうけんめい聞く

* see ではなく watch

* hear ではなく listen

◆相手に強い注意を向ける
＝フォーカス(焦点化)



つまり「待つ」は、

何かを「する」よりも、
意識的で高度な行為



意識的で能動的な待つ 行動が

コミュニケーションを成り立たせ

それと同時に

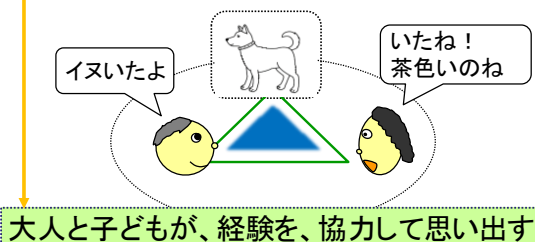
よく見て考え判断する力と、その判断に
基づき行動する「自我」を育てる

さあ、それでは、
会話で子どもと
どんなことを話そうか・・・

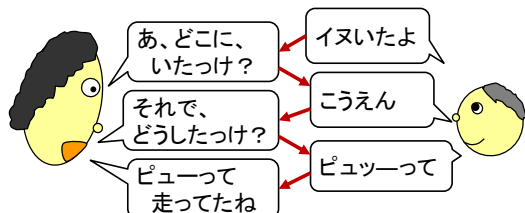
いっしょに思い出を話そう

いっしょに思い出を話す

共同想起



共同想起における大人の援助



質問・ことばのふくらませ・話しの展開の促し etc
大人との適切な対話が、
子どもの語りを支え、豊かにして行く

聞き手の大切さ

熱心に語るためには、
熱心な聞き手が必要

あいづち・表情・うなづき・・・

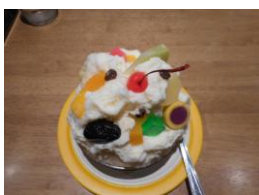
* 会話のリズム・テンポの相性も大切

子どもとのおしゃべりの
良き相方になろう！

共同想起の工夫①

思い出す手がかりを用意する

映像や写真



共同想起の工夫②

印象の強い思い出を作る

そこで・・・

観光に行こう！

観光は学習の宝庫

観光に行ったら動画や写真を撮ろう！



思い出す手がかり 思い出の共有

お土産を買おう！



お土産は
タイムマシン

★人にあげるということも大切

そして..

会話の中での共同想起は

子どもの成長とともに少しずつ

いっしょに経験していないことを
相手に話す「語り」へと発達して行く

※「語り」とは、自分だけのことばの力で、
その経験を知らない人にも、
わかりやすく伝えること

語り: 学校でのスピーチ

きょうは、みなさんに、夏休みに行った
旅行のことをお話します。私は、8月の
はじめに、家族と、三重県に行きました。最初
に、伊勢神宮という神社を見学しました。
伊勢神宮に行ったのは始めてだったので
すが、とても大きくて驚きました。

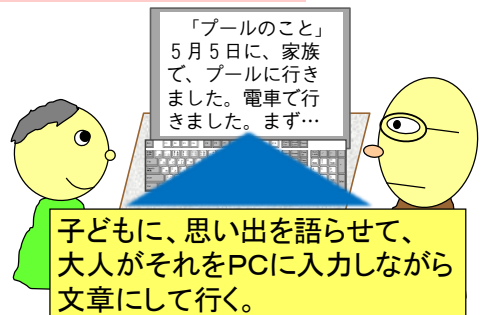


不特定多数を対象に
客観的に、出来事を語
らなければならない。



ことばのテーブルで
行っている語りの学習

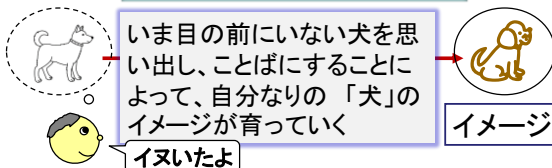
口頭作文



子どもに、思い出を語らせて、
大人がそれをPCに入力しながら
文章にして行く。

思い出を話すことは、なぜ大切か

イメージ能力を育てる



思い出し、ことばで表現する活動が
イメージ能力を高めて行く

イメージは目に見えないもの
だから..

イメージ能力の発達
目に見えないものの発達に
つながって行く



心の理解

語りの理解

読書

すべて目に見えないもの

だから、たとえば・・

読み聞かせや小説を楽しんだり
読解問題を解いたりするには



まず少なくとも、自分の経験を
語れるようではないといけない

子どもにいろんなことを話してもらって
語りの力を育てて行こう

でも・・子どもに話せ、話せというばかりでは、
大切な「かわりばんこ」になっていない
と、いうことで

最近は、こちらからも、「語り」をしている

先生からのお話



このまえの日曜日、
先生はお祭りに行き
ました。



「先生からのお話」の流れ

自分自身の体験を短いお話にして語る

※この課題を始めたころは、話だけ
だったが、最近は写真や、ときに、
動画を見せながら、話を進めている

プレゼンテーション

話を聞き終わったあと、話の内容につ
いて、子どもに、何か質問をもらう

「先生からのお話」の目的

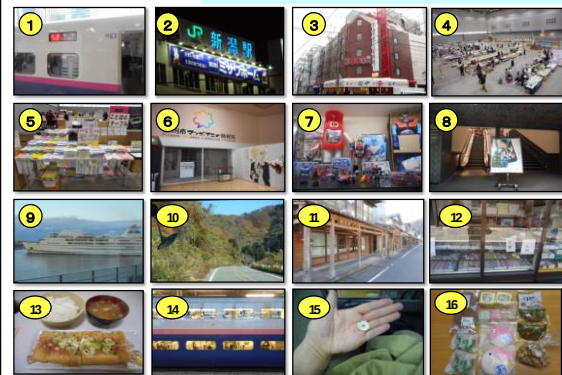
①語りの学習

* 語りのモデルに触れ、
自分の語りの参考とする

②質問の練習

* 話の内容の中で、質問できる部分
を見つけて、先生に質問をする

先生のお話例 プリントを売りに行ったこと



「先生のお話」のプレゼンは

子どもにとって鑑賞体験



と考えている

鑑賞とは、作品を楽しむこと

子どもに楽しんでもらうために、
話の内容や表現方法を考えることは、
作り手の能力や態度として必要だが

同時に、聴き手の方にも、[楽しむ]ために
備えていなければならないものがある

お話を楽しむことは簡単ではない

話の構造や内容についての**常識**がいる

★お話は時間を追って進んでいる

★世の中にはいろいろな行事がある

話し手に対する**共感**がいる

★いつの世も人の気持ちは変らないなあ

まだ知らないことに対する**関心**がいる

★何のことだろう？／続きを聞きたい！

という感じで、日々、写真や動画などを見せながら「先生のお話」を行っているのだが

最近では、それに触発されてか

子どもが、口頭作文の際に、写真や動画などを持参して体験を語ってくれることが多くなってきた



子どもが自発的に持って来る
写真や動画等は
本当に人に見せたいと思うもの

だから面白い！



ことばは拙くても、写真や動画なら
伝えたいこと、そして、伝えたい気持ち
が、相手に伝わる

人に何かを伝えたいと思うこと

ことばの発達を促す原動力

たとえば、ある子どもは、ことばのテーブルで
自分の経験を話すことが習慣になってから

その子が、生活の中で、何かをしながら、
「あ、このこと、こんど先生にお話にしよう」

 と言うようになった、と家族の方から伺った

伝えること＝ことば を想定しながら、何かを
することは、単語や文法習得を援助する

という
ことで 子どもからも、大人からも
たくさん経験を語ろう

たとえば、毎日、大人と子どもが
お話をひとつずつ持ち寄って
お話のかわりばんこ 話をする

今日ね、学校でね・・・

お母さんは今日ね・・・



だから 子どもからも、大人からも
たくさん経験を語ろう

たとえば、毎日、大人と子どもが
お話をひとつずつ持ち寄って
お話のかわりばんこ 話をする

今日ね、学校でね・・・

お母さんは今日ね・・・

